

【奥の細道】

【】(三) 三代の栄耀一睡のうち(ア) (イ)

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

三代の栄耀一睡のうちにして、大門の跡は一里こなたにあり。秀衡が跡は田野になりて、金鶏山のみ形を残す。まづ、高館に(ア) 登れば、北上川南部より流るる大河なり。衣川は、和泉が城をめぐりて、高館の下にて大河に(イ) 落ち入る。泰衡らが旧跡は、衣が関を隔てて南部口をさし固め、夷を防ぐとみえたり。さても義臣すべつてこの城に(ウ) もり、功名一時のくさむらとなる。「国破れて山河あり、城春にして草青みたり。」と笠打ち敷きて、時のうつるまで(エ) 涙を落としてはべりぬ。

(ア) (イ) 夏草や 兵どもが夢の跡

(奥の細道)

問一 (ア) 「登れば」の意味として適当なものを、次のア～エから選べ。

ア 登るうちに イ 登るけれども ウ 登るならば エ 登ってみると

問二 (イ) 「落ち入る。」の主語を一文節で答えよ。

問三 (イ) 「涙を落としてはべりぬ。」とあるが、涙を落とした理由は何か。最も適当なものを、次から選べ。

ア 永遠の自然に比べて人の世のはかなさを感じたから。

イ 時が経過して戦いの跡が消滅したのを嘆く気持ちから。

ウ 功名を争って戦った兵どもの勇氣に深く感動したから。

エ 人間の命の短さを季節の変化を通してよく知ったから。

問四 (イ) (イ) の句と同じ情景を述べている一文を、文章中から抜き出し、初めと終わりの三字で答えよ。

(群馬)

「解答」

問一 エ

問二 衣川

問三 ア

問四 初め…まで

終わり…となる